

令和8年度 第1回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 令和8年5月22日（金）10時00分から12時00分まで
- 2 場 所 静岡庁舎 本館3階 第3委員会室
- 3 出席者 **【委員】**（敬称略）
木宮 敬信、祝原 豊、田村 元延、加藤 綾子、山城 史人、
大島友佳里、深澤 陽介、高津 健一、天野 温紀、牧田 裕介、
森 菜月
【事務局】
（スポーツ振興課）
能口スポーツ振興課長、三矢施設担当課長、深澤課長補佐兼企画係
長、森山施設第1係長、鷺澤施設第2係長、島田ユニバーサルスポー
ツ推進係長、野崎スポーツツーリズム推進係長、齋藤主任主事、梅原
主任主事、萩原主事

欠席者 鈴木 健司、伊藤 省吾、内川 久雄、笹本 とよ子
- 5 傍聴者 2名
- 6 報告事項 (1) 令和8年度「パラスポーツ推進プロジェクト（パラスポーツの実
施環境の整備等に向けたモデル創出事業）」について
- 7 協議事項 (1) 第3期静岡市スポーツ推進計画の骨子について

8 会議概要

司会（齋藤）

<開会>

- ・配布資料の確認
- ・事務局の紹介
- ・会議成立（委員半数以上の11名出席により会議成立）
- ・会議の公開について、事前の傍聴希望者：2名
- ・当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する<異議なし>

説明事項（1）令和8年度「パラスポーツ推進プロジェクト（パラスポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）」について

【資料1】

一般社団法人「ユニバーサルスポーツしずおか」大塚事務局長

- ・資料1に沿って「ユニバーサルスポーツしずおか」の事業趣旨について説明。

<委員からの質問・意見>

深澤委員

- ・清水エスパルスでもパラスポーツ関係の事業を行っている。連携事業を行っている今泉氏、ブラインドサッカーの森田氏に本取組のヒアリングを行ったため、共有する。
- ・今泉氏へのヒアリング内容
現状と課題について、人材組織体制の強化が不足、具体的に障がい特性に応じた指導者不足、地域クラブの連携、地域によって参加機会に差がでる可能性、市内全域への展開、市内団体の理解促進、保護者の情報不足、心理的に参加ハードルが高い、環境を作っても参加動機・動線が不足といったことが挙げられる。
総合的に施設・プログラムの両面で環境整備が必要。専門家・指導者・支援者との連携が必要。
新たな提案として、市内の小中学校へパラスポーツ体験の実施、授業の一環としてアダプテッドスポーツを学ぶ機会の提供、などが出た。
- ・森田氏へのヒアリング内容
毎年、ゴールデンウィークに大阪駅前にてブラインドサッカーの国際大会を行っている。平日でも素晴らしい集客があり、世界レベルのブラインドサッカーを生で観戦することができる。飲食ブースなどもあるため、清水駅の東口で同じようなイベントを実施してほしい。

協議事項（１）第３期静岡市スポーツ推進計画の骨子について

【資料】

萩原主事

- ・資料２に沿って「第３期スポーツ推進計画」について説明。

<委員からの質問・意見>

木宮会長

- ・第２期では、「個人のウェルビーイング」が基本理念に示されていたが、第３期では、「地域経済の活性化」が基本理念に示され、大きく方向が変わった。この理念をそのまま受け取ってしまうと、お金を生み出す事業をやらないといけない、といった話になり、スポーツ推進に対してネガティブな部分が出てしまう。「経済優先」ではなく、「スポーツ推進」というところも考えなければならない。

祝原副会長

- ・計画内に記載をしている「地域経済」の言葉を、どういう形で捉えているか。

齋藤主任主事

- ・地域経済とは、スタジアムアリーナを核とした活性化として捉えている。アリーナを核としたスポーツを活かしたまちづくりに加え、市のスポーツ施設の民間化等も踏まえている。

木宮会長

- ・スポーツによる地域経済の活性化の一例として、「スポーツを行うことで、市民の健康が向上（病気率の低下等）し、仕事の生産性が向上（経済が活性化）する」といった方向も考えられるが、具体的な指標の設定ができない。指標を「お金を生み出すこと」にするのであれば、儲かることは民間がやっていき、儲からないことを市がやるべきと考える。
これらを踏まえて、グループワークにて、協議したい。

ワークショップ

- ・各班に分かれてグループワークを実施。
- ・各班それぞれの基本方針について議論した。

1班（基本方針1）：天野委員

- ・指標について、アウトカムをどこに設定するかを検討した。
ウェルビーイングはアウトカムを設定するのが難しい。「16歳以上」というのは義務教育が終了した年代であるが、基本施策には、「子どものスポーツ機会の充実」と記載さ

れており、アウトカムの設定が図れているのかといった声も出た。

- ・市民意識調査のアンケート項目の変更も検討したい。
- ・「集まる、つながる」といった新たなキーワードについて、今まで図られていなかったものをどう図るか考えたい。

2班（基本方針2）：牧田委員

- ・経済というキーワードについて、「地域経済＝手段」、「裾野拡大＝目的」であり、「経済の活性化を通じることで、スポーツの持続的な発展を目指す」といった位置づけははっきりと捉えなければならない。また、経済の活性化の手段として、スタジアムアリーナやスポーツ施設を通じた街づくりへの影響はサブとして位置づけである。
- ・経済の活性化ということで、分野の幅は広がるが、市として支援をするところは見定めて行うべきである。

3班（基本方針3）：大島委員

- ・基本理念の「地域経済」について、スポーツを行った結果活性化したとなるなら納得できる。
- ・アリーナ建設はチャンス。試合そのものだけでなく、プロの付随イベントや、周辺施設の盛り上がりも期待できる。
- ・基本方針3について、「ユニバーサルスポーツ」という概念の浸透をまずは進めるべき。こどもの頃からの教育（授業でのボッチャ等）での周知が重要。
- ・「ユニバーサルスポーツの聖地化」の具体案として、地域企業をまきこんだグッズの庵原地区での販売等、企業を巻き込んだ聖地化を図っていくべき。

木宮会長

- ・市民意識調査のアンケート内容について、検討していくのも良いのではないか。
- ・「集まる」「つながる」といったキーワードは、スポーツの価値についての指標。これを何か施策の中に組み込めるか。次のスポーツの柱になっていくと感じた。
- ・部活動地域移行により、こどものスポーツ実施率が下がる可能性もあるし、上がる可能性もある。10年後には、今と全く違う形になる。スポーツを自分からやりにいかないとスポーツをやらない時代になる可能性が高いため、学校だけでなく、それ以外でもスポーツを広げられるような内容にしたい。
- ・お金の面について、スポーツができなくなる可能性として、施設の老朽化や廃止などの問題がある。こういった問題について、何ができるかも併せて考えたい。

田村委員

- ・AI等により、人の価値が「コミュニティ形成」になると思われる。人と人が「つなが

る」場所をどのように作るか。それを実現することにより、スポーツの価値を見出して
いきたい。

木宮会長

「集まる」「つながる」といった話題が出たが、高校の保健体育の教科書には「する・み
る・ささえる・知る」という4つのキーワードがでてくる。「知る」については、今後、
どのように扱うべきか。

加藤委員

つながって、集まって、知って、みて、やる。といった段階的になっているものだと感じ
た。

木宮会長

「する・みる・ささえる」はスポーツとの直接的な関わりが感じられる。「知る」はその
前段階としての用語に感じる。スポーツに関心がないとスポーツをやらない。そういった
側面から組み込まれていたのかなと思う。

大島委員

高校教科書の「知る」は、スポーツの歴史とか、オリンピックの背景、自分の技術を知
る、という意味でもあるのかもしれない。確かに「する・みる・ささえる」に並列だとは
感じない。

木宮会長

「知る」について、今後定着するのかは分からない。動向を見ながら検討していきたい。

以上

令和8年度 第1回静岡市スポーツ推進審議会の審議内容について、
上記のとおり相違ありません。

令和8年6月1日

静岡市スポーツ推進審議会 会長 常葉大学教授 木宮 敬信